

## エッセイコンテスト表彰式を開催

01



ルワンダと日本の女性議員の数を比較し「日本もルワンダに学ぶことがある」と強調した小山さん



「一人で行えることは小さいかもしれないが、仲間がいたので行動することができた」と話す川口さん

JICAは毎年、中学生・高校生を対象に、国際社会の中で自分たちがどう行動すべきかを考えてもらうエッセイコンテストを実施しています。「世界の人々と共に生きるために―私たちの考えること、出来ること―」をテーマに掲げた2017年度のコンテストに全国から寄せられた作品の数は、中学生の部が3万8459点、高校生の部には過去最多の3万1685点。この中から選ばれた上位入賞者40人のうち37人が、2月24日にJICA地球ひろば（東京都新宿区）で開催された表彰式に参加しました。

表彰式では、受賞者を代表して、中学生の部でJICA理事長賞を受賞した小山西さん（岩手県・一関市立磐井中学校1年）と、高校生の部で外務大臣賞を受賞した川口博也さん（神奈川県・慶應義塾高等学校3年）が受賞の言葉を述べました。

JICAの越川和彦副理事長は、「持続可能な社会の在り方や平和の重要性を訴える作品が多かった」と今回の応募作品の傾向を説明し、「より良い世界を築くためには最初の一步が重要。皆さんは最初の一步を踏み出した」と参加者の今後の活躍に期待を寄せました。

中学生の部の審査員を務めた教育評論家・法政大学特任教授の尾木直樹さんは、応募作品が自らの体験を出発点に世界を考えていることについて、「グローバルな視点と感受性に無限の可能性を感じた」と講評。一方、高校生の部の審査員を務めた女優・エッセイストの星野知子さんは、海外での経験から日本の社会問題に目を向けた作品が増えていることに触れ、「広い視野と、自分たちができることをやるという行動力に感心させられた」と述べました。

名誉審査員長で、脚本家の小山内美江子さんは、家族と共に会場にやって来た参加者の姿に、「ご家族が喜び、期待している様子を見ることができてうれしい」と激励しました。

最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞の受賞者には、副賞として約1週間の海外研修が贈られ、青年海外協力隊の活動現場やプロジェクトサイトを訪問して開発途上国の暮らしや国際協力の現場を視察してもらう予定です。

## エジプトで日本式教育の導入・普及を支援

02



署名式に出席した北岡理事長

JICAは2月、エジプト政府との間で、「エジプト・日本学校支援プログラム（エジプト・日本教育パートナーシップ）」を対象に、186億2600万円を限度とする円借款貸付契約に調印しました。

エジプトでは、人口増加により学級当たりの生徒数が過剰となり、義務教育において個々の生徒の理解度に応じた指導や社会性を育む教育が十分に行われていないため、子どもの理解不足と規律や協調性の欠如が問題となっています。

このため、同国政府は学が意欲や公平性・協調性の醸成に資する、掃除や学級会に代表される日本式教育を導入。本事業はこれを後押しし、財政支援を通じて政策実施・制度構築の促進により、日本式教育を導入する「エジプト・日本学校」の開校を推進するものです。

本事業は、2016年に日本・エジプト両政府間で締結された「エジプト・日本教育パートナーシップ」の下で実施され、教育の質の改善や若者の能力強化に寄与すると共に、持続可能な開発目標（SDGs）ゴール4「質の高い教育をみんなに」に貢献します。

## イラン・テヘラン市に大気汚染分析機器を整備

03



署名式の様子

JICAは2月、イランのテヘラン市役所との間で、「テヘラン市大気汚染分析機材整備計画」を対象に、12億4200万円を限度とする無償資金協力の贈与契約を締結しました。

テヘラン市は、過去にJICAの技術協力を得て、一酸化炭素濃度を同国政府の定める基準値以下まで削減しましたが、大気汚染の原因とされるPM2.5や二酸化硫黄などについては、依然として基準を上回る値が観測されています。

これらの物質は種類が多く、発生源や測定法も複雑であるため、モニタリングはほとんど行われていない状態です。そこで、本事業では同市に排ガス測定や粒子状物質などの化学分析に必要な機器を整備し、大気汚染物質の排出量の測定や、発生源、生成メカニズムの分析精度の向上を図ります。現状把握が進むことで、同市における大気汚染軽減に向けた対策検討も促進されると見込まれ、これらを通じて環境の改善を目指します。

JICAは本事業に加え、大気汚染対策の制度整備や人材育成に関する技術協力も行い、包括的な支援を実施します。